

令和3年度 自己評価表

※評価基準： A＝達成できた
 B＝おおむね達成できた
 C＝ある程度達成できたが改善が必要
 D＝達成できなかった

重点目標 1 安心・安全な学校づくり

部	関連する重点目標	取組目標	取組方法	自己評価		保護者アンケート	反省と課題及び改善策	
				A～D	集計結果			
小学部	1 安心・安全な学校づくり ②個に応じた指導・支援の充実	(継続 ・ 新規) ・教員間で共通理解を図り、個に応じた指導・支援の在り方について検討し指導・支援の充実を目指す。	1 ケース会議を実施し、対象児の実態や状況の理解を深め、指導支援の在り方を検討する。 ・学年・ブロック会でニーズを把握。 ・ケースがでた場合、会議を設定。 ・校外のアドバイザーの活用。 (自立活動充実事業の専門家の活用なども) ・ケース会議の記録を学部の教員間で情報を共有。	B	A : 35% B : 63% C : 2% D : 0%	評価項目なし	反省・課題 ・ブロック会等で状況やニーズの確認を行い、ケース会議や自立活動充実事業を活用した検討会を設定した学年・ブロックもあったが、もう少し検討できたら、と感じる教員もいた。ケースにあげやすい働きかけが必要である。	改善策 ・学年会やブロック会でクラスの状況を詳細に話せる時間の設定をする。その上で、更に時間が必要な事柄については、主任等からケースにあげる提案をする。
		(継続 ・ 新規) ・安全管理と防災・安全教育の充実を図る。	1 年度当初に安全管理と防災・安全教育を学部全体で取り組んでいくことの共通理解を図る。(4月) 2 9月に実施する防災週間に向けて、各学年で安全教育の指導内容、指導略案を作成する。(～7月) 3 教員向けの研修を通して、学校としての防災力を高める。(8月) 4 防災週間に合わせて、安全教育を各学年で実施、簡易給食、防災訓練を実践していく。(9月) 5 地震初期対応訓練の実施。(年3回) 6 防災訓練の実施。(年3回) 7 今年度の取り組みを見直し、次年度につなげていく。(～3月)	B	A : 48% B : 51% C : 1% D : 0%	評価項目(1) A : 72% B : 23% C : 2% D : 0% E : 3%	反省・課題 ・防災週間に合わせて効果的に防災教育を各学年(1年：防災グッズ作り、2年：避難所体験、3年：防災マップ作り)で実施できた。それぞれの学年で体験を通して防災に関する興味関心を深め、災害が発生したときの備えや対応を学ぶことができた。	改善策 ・今後も発展的に継続して学習を実施していく。また、職員の防災意識を高め、災害時に冷静に適切な判断ができるような訓練を積み重ねていく必要がある。
教務部	1 安心・安全な学校づくり ①安全管理と防災・安全教育の充実	(継続 ・ 新規) ・安全で安心な学校生活実現のため、物品管理等を適切に行う。	1 安全に物品を使用できるように管理する。(教材教具) 2 学部運営に安全への配慮を一つ一つ確認する。(教育計画) 3 校内表示や教職員物品など、安全に使用できるように配置されているか再確認する。(庶務)	B	A : 23% B : 73% C : 4% D : 0%	評価項目なし	反省・課題 ・主事会や学部会などでヒヤリ・ハット事例についての情報共有や、危険と思われる場所の検討などを行った。情報共有はできたが、事例一つ一つを我が事感として意識していくことが今後の課題である。 ・安全な物品管理(紛失)や配慮(防災)の点での課題があげられた。	改善策 ・学年会やブロック会など小集団での会議で事例について話し合う機会を設け、我が事として感じられるようにしていく。 ・物品管理での紛失は情報部と、安全への配慮としては保健指導部と連携を図り、貸し出し方法の再検討や点検などを強化していきたい。

保健指導部	1 安心・安全な学校づくり ①安全管理と防災・安全教育の充実	(継続)・(新規)	1 感染症予防・拡大防止ときれいな学校を目指し、必要に応じた消毒と洗面台やトイレの清掃を重点的に行う。 2 保健指導部だけでなく、児童生徒の指導に関わる教職員に消毒の必要性和方法を伝え、教職員の意識を向上と共通理解を図る。	A	A : 48% B : 50% C : 2% D : 0%	評価項目 (2)	反省・課題	・国や県のガイドラインに則った感染症対策と清掃を実施し、安全できれいな学校づくりを進められた。継続して進めていく。教職員の負担を減らしたいとの思いはあるが、具体的に進められていない。
		・安全できれいな学校作りを目指し、感染症対策と清掃を教職員が共通の意識をもって取り組めるようにする。	A : 62% B : 29% C : 6% D : 0% E : 3%			改善策		・感染状況や時期、または新たな対応などにより消毒方法・場所の変更はあるが、その都度対応して児童生徒、教職員の安全を第一に進めていく。また、感染状況に応じた段階的な消毒方法などを学校医や薬剤師の助言を得ながら検討し教職員の負担も減らしていく。
保健指導部	1 安心・安全な学校づくり ①安全管理と防災・安全教育の充実	(継続)・(新規)	1 保護者や地域、危機管理委員会からの意見を取り入れながら訓練やその他の防災関係を見直す。 2 備蓄品の管理と適正数の把握・追加を行い、教職員や保護者へ周知する。	B	A : 48% B : 51% C : 1% D : 0%	評価項目 (1)	反省・課題	・外部からの意見を取り入れることはできなかったが、竜巻や火災などそれぞれの災害を想定しながら事前の打ち合わせや準備をして訓練に臨むことができた。また、備蓄品の整理を進めつつ教職員への周知も進めることができた。引き渡し訓練についても感染症に対応しながら行うことができた。
		・実際の災害を想定した防災訓練・引き渡し訓練の充実と、備蓄品の整理を行う。	A : 72% B : 23% C : 2% D : 0% E : 3%			改善策		・保護者の意見や地域の取り組みを取り入れられるような体制を作る。 ・より実際の災害時に近づけるためには、事前連絡なしの訓練や一斉での引き渡し訓練などの実施も考えられる。目的や方法等を検討し進めていく。
生徒指導部	1 安心・安全な学校づくり ①安全管理と防災・安全教育の充実	(継続)・(新規)	1 年間を通して教職員による登下校時の通学指導(スクールバス乗車指導や駅指導、通学立哨指導)を行う。 2 構内の入校についてのルールを丁寧に説明し、事故のないように誘導する(構内安全強化週間の設定)。 3 全学部で交通安全に関する学習を計画・実施し、安全について理解を深めるようにする。(交通安全教室や徒歩学習時等) 4 保護者会等における丁寧な説明や生徒指導だよりの発行を増やすことで安全教育の啓発を行う。	B	A : 63% B : 33% C : 4% D : 0%	評価項目 (3)	反省・課題	・年間を通して行う通学指導とは別に、その他問題が生じた場合には、その都度通学指導を行ってきた。安全について、重大な問題・事故等は起きることはなかったが継続して行わないと安全意識が薄れていることが課題である。 ・休日中の事故が起きた際には、保護者から学校の緊急連絡用携帯に連絡が入るよう意識が高まっている。
		・児童生徒の登下校時及び休日中の事故を未然に防ぐために、児童生徒に対する指導の充実や教職員、保護者への啓発を含めた指導体制を整えて指導にあたる。	A : 60% B : 23% C : 7% D : 2% E : 8%			改善策		・通学指導については、児童生徒が安全に通学できるよう実施計画を立て、年間の計画に位置づけ、継続的に行うことで安全意識を高める。 ・夜間、休日中の事故や構内の通行については、引き続き安全週間を設けたり、保護者会での説明、たよりにて通知するなど、啓発を進めていく。
事務部	1 安心・安全な学校づくり ①安全管理と防災・安全教育の充実	(継続)・(新規)	1 安全点検等で報告のあった破損箇所や基幹箇所について、緊急度等を勘案し、予算の範囲内で修繕等を実施する。 2 予算不足等により、直ちに実施できなかった箇所については、本庁と協議の上、早期の実施を検討する。	A	A : 49% B : 49% C : 2% D : 0%	評価項目 (4)	反省・課題	・限られた予算の中で、緊急度・優先度を勘案して修繕を行った。 ・保護者アンケートで「わからない」と回答する方が、昨年度よりも減ったが、一定数いる。
		・危険箇所の修繕、改善を実施する。	A : 49% B : 39% C : 4% D : 0% E : 8%			改善策		・緊急性の高いものは、県に予算を要求する。 ・学校のHPに、「事務室だよりの」として完了した工事等の情報発信を開始した。
事務部	1 安心・安全な学校づくり ②個に応じた指導・支援の充実	(継続)・(新規)	1 校内及びスクールバスの消毒などに必要な資材について、県費を団体費予算から調達する。	A	A : 58% B : 41% C : 1% D : 0%	評価項目 なし	反省・課題	・感染症対策用品は、各学部からの要望を含めて、県費予算から概ね調達できた。
		・新型コロナウイルスに係る必要資材を調達する。	改善策					・感染症対策用品予算は、使途限定の国庫補助金を含んだ県予算として措置されている。今後も、県予算と団体費予算の状況を勘案しながら、必要な資材の調達を図っていく。

重点目標2 学習指導の充実

部	関連する重点目標	取組目標	取組方法	自己評価		保護者アンケート	反省と課題及び改善策	
				A～D	集計結果		反省・課題	改善策
小学部	2 学習指導の充実 ①新学習指導要領の着実な実施	(継続 ・ 新規)	1 目標設定シートを活用し設定した目標の妥当性を確認する。(～5月) 2 事例による指導実践・評価・指導改善を行う。(年間) 3 次年度に向け目標設定シートを見直し、目標作成する。(3月～)	B	A: 44% B: 54% C: 2% D: 0%	評価項目(5) A: 64% B: 29% C: 5% D: 0% E: 2%	反省・課題	・対象児童について、小グループでの検討会実施により、目標、手立ての妥当性や指導経過と方向性など確認できたが、一部で負担感もあった。次年度に向け、シートの改善・活用の仕方や校務支援システムによる指導計画立案との関係などが課題である。
		改善策	・持続できる取組となるよう、事例の上げ方や検討会の持ち方を工夫する。 ・関係分掌と連携し、効率的な活用ができるよう様式・項目等の見直しを行う。					
中学部	2 学習指導の充実 ①新学習指導要領の着実な実施	(継続) ・ 新規)	1 新学習指導要領における個に応じた指導の在り方の工夫の視点を職員で共通理解を図る。(～5月) 2 昨年度に引き続き、各学年ごとのグループで授業実践を行い、授業研究、評価(指導内容、授業の手法等)する。それを元に授業改善を図る(～12月) 3 年間指導計画・単元指導計画・指導路案の検証、改善を行い、個に応じた指導の在り方の工夫について検証を行う。(～12月) 4 評価したことを指導に生かしていくための評価の在り方について検討する。(～12月) 5 年間指導計画、単元計画、指導路案をまとめる。(1月～2月) 6 来年度に引き継ぎを行う。(3月)	B	A: 43% B: 56% C: 1% D: 0%	評価項目(5) A: 64% B: 29% C: 5% D: 0% E: 2%	反省・課題	・学部として各学年の取り組みや課題を共有し、学習指導要領の視点に沿った指導計画作成や評価の在り方の改善を図ることができた。学習指導する上で、この一連の流れが職員に浸透してきたことにより、今後のよりよい授業が期待できる。
		改善策	・来年度へしっかり引き継ぎ、継続して取り組んでいくことが、さらなる職員の指導力向上につながっていくと考えられる。今後もPDCAサイクルを通して、授業改善に取り組んでいく。					
高等部	2 学習指導の充実 ①新学習指導要領の着実な実施 ②ICTを活用した指導の充実	(継続 ・ 新規)	1 方針やスケジュール等について確認する。(～6月) 2 グループごとに授業実践、授業研究会を行い、授業の資質向上を図る。(～10月) 3 学部全体で発表会を行い、他のグループの実践等を共有する。(～12月) 4 授業実践や評価の工夫等を生かし、次年度の年間指導計画等の改善する。(～3月)	B	A: 43% B: 56% C: 1% D: 0%	評価項目(5) A: 64% B: 29% C: 5% D: 0% E: 2%	反省・課題	・作業学習を中心とした授業改善や評価の工夫等を行い、おおむね目標を達成することができた。ICTの活用については、授業では日常的に活用しつつあるが一部保護者には取り組み等が周知できていない面もある。
		改善策	・ICTの活用に関して、引き続き保護者会等の場面で活用例などの報告等を行いつつ、日々の連絡帳等で活動の様子を積極的に伝えるなどする。タブレットPCは4月より活用を始めたばかりであるので、活用例やアプリの紹介など、学部会等の中で、報告し合うなど共有していける場面を設定し、授業改善に取り組んでいく。					
訪問教育学級	2 学習指導の充実 ①新学習指導要領の着実な実施	(継続 ・ 新規)	1 昨年度作成した「自立活動目標設定シート」の見直しをする。(～5月) 2 「自立活動目標設定シート」を元に、目標や手立ての確認をし、共通理解を図る。(～5月) 3 「自立活動目標設定シート」を活用して指導の実践をし、効果や課題改善点等を話し合う。(通年) 4 次年度に向け、目標や手立ての見直しをする。	B	A: 44% B: 54% C: 2% D: 0%	評価項目(5) A: 64% B: 29% C: 11% D: 0% E: 2%	反省・課題	・「自立活動目標設定シート」活用して話し合いをもつことができた。各自の授業時間の調整つかないこともあり、話し合いが短時間になることもあったが、新型コロナウイルス感染症により集団での学習が実施できない中、指導に関しての共通理解を図る場とすることができた。
		改善策	・家庭での授業となるため、指導の場面を写真や動画で撮っておき、それを元に話し合いができるとよい。					

重点目標 2 学習指導の充実

訪問教育学級	2 学習指導の充実 ②ICTを活用した指導の充実	(継続 ・ 新規)	1 昨年実施した授業の良かった点や見直すべき点を振り返り、共通理解を図る。(4月) 2 年間指導計画の中から、オンラインで実施できそうな授業をピックアップする。 3 授業を実践し、その都度反省改善していく。(通年) 4 今年度の実践を振り返り、来年度の実践に生かせるようにする。	B	A : 43% B : 56% C : 1% D : 0%	評価項目 (6) A : 34% B : 41% C : 10% D : 0% E : 15%	反省・課題	・今年度、6月スクーリング(2回)、9月分散登校期間のオンライン授業(12回)、10月スクーリング(2回)をZoomで、7月の合同訪問(5回)をTeamsでつなぎ、オンライン授業を実施した。回を重ねるごとに教員や保護者の機器の操作も上達し、スムーズに活動することができた。また、音楽や調理実習等新しい活動も取り入れ、授業の質の向上を図ることができた。他学部の先生方に協力いただいたことで、普段会うことのない先生方との関わりももつことができた。
		改善策	・障害の重い児童生徒にとっても教員側の工夫次第で、オンラインでの授業の可能性はもっと広がると思われる。保護者の御協力が必要になるが、児童生徒が楽しめる活動内容や家庭同士でつながれる機会を増やしていけるとよい。また、コロナ関係の予算で買っていた新しい機器も効果的に使えるよう実践を積んでいく。					
学習指導部	2 学習指導の充実 ①新学習指導要領の着実な実施	(継続 ・ 新規)	1 4月の各学部会にて、学習指導要領の視点、特に観点別の学習評価についての研修を行い、評価の意義、方法等について共通理解を図る。 2 年間を通して、各自担当する単元指導計画、指導略案等の作成および実践において、書式に沿って、評価計画を作成し、授業実践を行う。 3 上記の授業計画と実践を受け、児童生徒一人一人の学習の様子について、個別の指導計画の評価において、観点を入れて記載する。 4 評価の結果を受け、授業計画の改善に生かす。 5 教育課程研究集会Bのテーマとも関連し、研修部、研究推進委員会との連携を図る。	B	A : 43% B : 56% C : 1% D : 0%	評価項目 (5) A : 64% B : 29% C : 5% D : 0% E : 2%	反省・課題	・4月の各学部会において、個別の指導計画作成についてと観点別の学習評価についての研修を行い、共通理解を図った。観点別学習評価については、評価の基準が各教員によってばらつきが見られた。 ・各教科領域部会等において、年間指導計画を主に学習指導要領の視点による目標の見直しを行ったが、継続的に行う必要がある。
		改善策	・今後も、研修会の実施と個別の指導計画評価の回議での直し等を通して、共通理解を図っていく。 ・次年度の年間指導計画及び単元指導計画の作成時に学習指導要領に沿った学習内容と目標になるように、各教科領域部会及び教科担当者中心に確認をする。					
学習指導部	2 学習指導の充実 ②ICTを活用した指導の充実	(継続 ・ 新規)	1 各自担当する授業の中でICTの視点を指導略案の該当欄に記載し、実施する。(4月～3月) 2 指導事例集として、作成した指導略案のデータを集成し、校内で共有する。 3 ICT教育の理解について及び実践例紹介の研修(全校)を実施する。(夏季休業中) 4 実践例となる事例を集成し、合わせて指導略案等を教材フォルダへ格納して校内で共有する。 5 上記の実践と合わせて、各学年・ブロック単位で年間指導計画に位置づける学習内容を検討し、記載する。(情報部と連携)	B	A : 43% B : 56% C : 1% D : 0%	評価項目 (6) A : 34% B : 41% C : 10% D : 0% E : 15%	反省・課題	・情報部と連携し、ICT教育の理解の一環として、夏季休業中にPCタブレットの活用方法についての研修を実施した。また、中高等部と比べ、小学部では授業での活用が少ないため、学部会にて実践例を紹介した。 ・ICTの活用についての該当欄を設けた指導略案の形式を使用できているが、指導事例としての指導略案は十分に集められていない。
		改善策	・各学部の授業や指導形態、児童生徒の実態に応じたICT教育を検討し、実践していく。今後も、授業でPCタブレット等を活用できるように、実践例などを紹介する。 ・ICT支援員に児童生徒に応じた学習ソフトの制作や授業準備などを依頼し、授業のサポートしてもらおう。 ・年間指導計画や単元指導計画作成で情報機器の活用した学習内容を検討し、それらの指導略案を事例として集めるよう周知する。					

重点目標2 学習指導の充実

部	関連する重点目標	取組目標	取組方法	自己評価		保護者アンケート	反省と課題及び改善策	
				A～D	集計結果			
研修部	2 学習指導の充実 ①新学習指導要領の着実な実施	(継続 ・ 新規)	1 課題研究日①にて各研究テーマの目的、実践方法、スケジュール等について共通理解を図る。(4月) 2 課題研究日②～研究グループを組織し、研究計画の作成および実践を行う。各自、担当する授業において授業実践を行う。(5月) 3 課題研究日③～⑥にて検討会を実施。指導計画および実践の様子と児童生徒の学習の様子を評価。指導計画、授業の手法等の改善を行う(5月～12月)。 4 夏季休業中の各教科・領域部会にて年間指導計画の学部間の系統性の確認作業を実施し、計画を改善する。 5 研究テーマA(自立活動)について、栃木県特別支援学校教育課程研究会にて中間報告の実施。(夏季休業中) 6 上記の協議内容を受け、実践を継続(9月～3月)。 7 次年度からの各テーマの他学部への波及のための情報共有、実践準備。	B	A : 43% B : 56% C : 1% D : 0%	評価項目(5) A : 64% B : 29% C : 5% D : 0% E : 2%	反省・課題	・課題研究ABCそれぞれにおいて、学部毎に研修を進めることで、方向性が決まり、実践研究を進めることができてきた。 ・それぞれに検討会を実施することができていた。 ・令和7年度までの全体の研究計画と、それに向けての研究方針・組織を立案することはできた。 ・特別支援教育課程研究会での中間発表、その後の伝達会を行うことができた。
		・教育課程研究会におけるA・B・C各テーマの研究の推進 ・令和2年度の実践を踏まえた授業改善のサイクルの継続(研究主題Bにおける取組)					改善策	・学部ごとに研究を行っているので、他学部の研究がシェアしづらいことが研究推進委員会で話題に上がった。今後課題研究報告会でシェアをする予定であるが、それとは別に、少しずつ情報を共有する枠組みを作る必要がある。 ・今後、令和4年度の研究推進に向けて、学部を越えたそれぞれの課題研究の枠組み作りを行う必要があるため、校務運営委員会、職員会議で提案をし、次年度の組織の大枠を提案することはできたので、次年度細かな案を年度始めに作成する事が必要である。
情報部	2 学習指導の充実 ①新学習指導要領の着実な実施	(継続) ・ 新規)	・教材フォルダ内のフォルダ構成、教材の検討を行う(学習指導部教科部会と連携) ・教材の学習効果の有効性を含め授業実践で取り入れ、検証を行う。 ・教材フォルダのフォルダ構成についての規定の策定と次年度に向けての改善を行う。 (学習指導部と連携) 【情報教育係】	B	A : 33% B : 64% C : 3% D : 0%	評価項目(5) A : 64% B : 29% C : 5% D : 0% E : 2%	反省・課題	・情報部内での整理は完了し、各教科会へも整理、見直しの依頼を行ったが、十分には整理されていない。 ・タブレットPCで利用できるソフトも追加をしたが、十分に利用されてはいなかった。 ・教材フォルダの存在を先生方に浸透していくかが課題である。
		・使いやすい教材フォルダを整備する。 ・使いやすさを考慮した教材フォルダ内の構成を構築する。					改善策	・各教科会と共同で有効な資料の保存を来年度以降もお願いし、先生方に伝えていく。
情報部	2 学習指導の充実 ②ICTを活用した指導の充実	(継続 ・ 新規)	・授業導入に向けての準備を行う。(アカウント作成、操作研修、管理システムの構築等) 【情報視聴覚機器係、情報化データ管理係】 ・授業の教員へのサポートを行う。(模範授業、プログラミング教育、情報モラル教育等) (学習指導部と連携) 【情報教育係】	B	A : 43% B : 56% C : 1% D : 0%	評価項目(6) A : 34% B : 41% C : 10% D : 0% E : 15%	反省・課題	・教員のスキルアップや児童生徒一人一人に対応した授業への取り組みが、小中高全体までは難しかった。 ・タブレットPCで利用する教材を準備したが、十分に利用されなかった。
		・GIGAスクールで配備されたタブレットPCの有効活用を図る。					改善策	・学習指導部と連携し年間の計画にタブレットPCの利用について取り込んでいく。 ・ICT支援員に今後も小規模な研修や教材作成などの依頼をしていく。 ・情報部が中心となり新たな取り組みについて提案をしていく。

重点目標3 保護者や地域に開かれた学校づくり

進路指導部	3 保護者や地域との連携 ②情報発信の進展	(継続 ・ 新規)	1 保護者へ情報提供を図る。 ①保護者向けの進路指導に関する手引きを作成し、提供する。 ②ホームページや進路だより等で情報提供をする。 2 関係機関との連携や引継ぎを図る。 ①ICTを活用し、支援方法などについての情報共有を図る。 ②個別の移行支援計画やサポートシートを見直し、進路先へのスムーズな移行を図る。	B	A : 45% B : 55% C : 0% D : 0%	評価項目 (9) A : 63% B : 32% C : 2% D : 1% E : 2%	反省・課題	・卒業後、「生活介護」を利用することが年々難しくなっている。進路決定に向けては、今後も積極的な保護者への早期からの情報提供が大切になる。
		・保護者へ進路選択に向けた情報提供や進路先への引継ぎ内容の整備に努める。	改善策			保護者に向けて進路情報発信に力を入れる。 ・HPでの情報提供の充実（進路だよりやYouTube）。 ・保護者会での進路情報のアナウンス。 ・懇談での個別の進路情報。 ・小中学部職員への進路情報提供。		
渉外部	3 保護者や地域との連携 ①保護者、地域の方との連携	(継続) ・ 新規)	1 PTA活動（研修委員会、学年懇親会、支部会など）において、防災・減災についての困り感や対応策などを話し合い、情報を共有する。 2 保護者の思いを教職員とともに共有し、本校の防災・減災に対する意識の向上に繋げる。	B	A : 43% B : 57% C : 0% D : 0%	評価項目 (8) A : 56% B : 35% C : 5% D : 0% E : 4%	反省・課題	・防災に関する講演会や、その内容をまとめた研修だより、各支部での防災に関するアンケート等で情報共有ができた。 ・教職員には、保健指導部に依頼して伝達講習を実施したり、紙面回覧を行ったりして意識啓発に取り組んだが、十分ではなかった。
		・保護者の防災意識を高める取り組みを行う。	改善策			・ホームページ掲載だけでなく、保護者会会場や廊下に掲示などしながら、繰り返し、意識啓発できるとよい。		
渉外部	3 保護者や地域との連携 ②情報発信の進展	(継続) ・ 新規)	1 保護者や卒業生がより積極的に学校と関わっていただけるように、活動内容、実施方法や手順の見直しなどを検討する。（新たな実施方法の導入、参加者の分散化、簡素化、情報発信の工夫など）	A	評価項目なし	評価項目なし	反省・課題	・PTA活動では中止になった行事について、過去の内容を紹介したり、おおぞら会では会員の言葉や知りたい情報などを募ったりして、たより発行で情報発信を多めに行い、理解を求めようとした。行事の受付業務やベルマーク点数計算などのボランティアを募集すると、多くの保護者の方が協力してくださり有り難かった。
		・PTA活動やおおぞら会活動に対する理解を求め、積極的な活動への参加を啓発する。	改善策			・今後も丁寧に説明することを心掛け、その都度状況に合わせた対応を検討しながら、参加しやすい活動を考えていきたい。		
地域支援部	3 保護者や地域との連携 ①保護者、地域の方との連携	(継続 ・ 新規)	1 特別支援教育連絡会を実施する。 関係市町の教育委員会の他幼児担当者にも参加を呼びかけ、本校の教育や児童生徒の様子を知っていただき適切な就学支援につなげるようにする。	B	A : 44% B : 56% C : 0% D : 0%	評価項目なし	反省・課題	・市町教育委員会担当者と保健師を対象に連絡会を実施した。本校の対象となる知的障害、重複障害の程度について具体的に説明を行ったが更なる理解を促す必要がある。 ・市町教育支援員会で審議される幼児についての実態把握ができる機会が不十分である。
		・地域の関係者に対して、本校の教育についての理解と認識を深め、適切な就学支援を行う。	改善策			・連絡会の実施内容を工夫し本校の児童生徒の実態を十分、理解してもらうための見学時間を増やす。また、市町の保健師の参加を促すことで就学相談への円滑なが引継ぎを促す。 ・市町教育委員会との連携を更に深め、幼児の日常の様子を把握できる機会を得ることに努め、適正な就学支援につなげる。		
地域支援部	3 保護者や地域との連携 ②情報発信の進展	(継続 ・ 新規)	1 学校応援ボランティアの開催情報を適宜掲載する。 2 地域との交流の様子をその都度HPに掲載する。	B	A : 45% B : 55% C : 0% D : 0%	評価項目 (7) A : 55% B : 35% C : 5% D : 0% E : 5%	反省・課題	・学校応援ボランティア実施の様子や次回の日程、小金井駅での作品掲示の様子を毎月ホームページに掲載することができた。
		・地域の方にも本校のことを知ってもらえるようにHPに情報を掲載する。	改善策			・今後も活動の様子を適宜ホームページに掲載し、情報を発信していく。		